

沖縄戦から79年 恒久平和を願う

沖縄戦で亡くなった恩納村出身戦没者を追悼する恩納村慰靈祭が6月25日、村慰靈の塔で執り行われ、遺族や関係者らが参列しました。

うんな中学校3年生の玉城梓恵菜さん(たまき しづな)が平和へのメッセージを読み上げ、戦争で命を落とした御靈を追悼しました。



平和へのメッセージ

恩納ナビーの歌にも登場する恩納岳。

この豊かで壮大な自然の中で、多くの命が奪われました。緑豊かな恩納岳は、当時のようないい声を聴いていたのでしょうか。

逃げ惑う人々の声、泣き叫ぶ子どもたちの声、それを追うアメリカ兵の声。そして、なり続ける銃声。そんな声を聴いていたのかもしれません。

私は、中学1年生の総合の授業で、山田地区にあるカーブヤーガマに行きました。ガマの中は想像以上に暗く、狭く、息苦しく感じました。この中でたくさんの人たちが、食べ物や水も十分にない、いつ襲われるかもわからない不安を抱きながら生活していたと思うと、とても辛く、悲しくなりました。

私たちが当たり前にしていること。毎日ご飯を食べること。学校に行って友だちとおしゃべりすること。そんな当たり前のことも、戦時中は許されませんでした。戦争はすべての人の日常を奪い、人々から笑顔さえも奪いました。それでも、世界ではまだ戦争を繰り返しているところもあります。

沖縄の住民を巻き込み、20万人を超える死者を出した悲惨な沖縄戦。あれから79年が経ちました。

戦争を知らない私たちにできることは、悲惨な戦争を繰り返してはならないということを、次の世代に伝えていくことだと思います。

一度と悲しい涙を流さないために。この島が、この国が、この世界のみんなが幸せであるように。この思いをみんなで紡ぎ、繋げていくことで、私たちが見つめる未来が平和で、光り輝くことを願っています。

社会を明るくする運動 メッセージ伝達式～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～

令和6年度「社会を明るくする運動」(期間:7月1日～31日)に伴い、7月2日、村役場において長浜村長及び宜志富教育長へ中部北保護区保護司会(橋下徹会長)及び當山直彦議員(保護司)より、内閣総理大臣・県知事・県教育長からのメッセージが伝達されました。

本運動は「犯罪や非行を防止し罪を犯した人や非行をした少年の更生を支え人々が支えあって生きていく明るい地域づくりに参画する」を重点目標に行われています。



人権擁護委員を紹介します

令和6年7月1日付けで法務大臣より、大城節子さんが人権擁護委員として委嘱されました。

人権擁護委員は、多くの方々が人権について関心を持ち、その理解を深めてもらうために様々な啓発活動を行なっています。

